

令和7年度  
秋田県立横手高等学校  
(全日制)

## 学校評価について

令和7年度の横手高等学校の取組について、保護者・教職員に学校評価アンケートを実施し、その集計結果をふまえ、令和8年2月10日に職員会議、令和8年2月20日に学校関係者による学校評価会議を実施しました。  
その内容を次ページ以降に掲載いたします。

### 【 掲載内容 】

#### 1. 学校評価アンケートについて

- |                            |       |
|----------------------------|-------|
| (1) 保護者・教職員アンケートの分析        | P 1   |
| (2) 保護者回答集計データ             | P 2   |
| (3) 教職員回答集計データ             | P 3   |
| (4) 主な保護者自由記述に対する各分掌等からの回答 | P 4～6 |
| (5) 学校評価職員会議での意見交換内容       | P 7   |
| (6) 主な教職員自由記述              | P 8   |

#### 2. 学校評価会議での学校関係者からのご意見・ご提言 P 9

後押ししていただく意見を多くいただく中、襟を正さなければいけない意見もいただいております。真摯に受け止めて、今後のさらなる教育活動の充実に努めて参ります。

# 令和7年度 学校評価アンケート(保護者・教職員)の分析

令和8年 2月10日  
秋田県立横手高等学校

本校では、実践してまいりました教育活動を振り返り、学校運営のより一層の改善を目指して、今年度は、全校の有効回答率84%(昨年度74%)のご協力をいただきました。調査項目15項目について、次の5段階で回答をお願いしています。

○そう思う ○どちらかというと思う ○あまり思わない ○全く思わない ○わからない

お忙しい中、ご協力いただきました保護者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。また、同じ質問項目で、教職員にもアンケートを実施しております。

## 1. 保護者アンケートの集計について(2ページ目)

ほとんどの項目で【そう思う】+【どちらかというと思う】という肯定的な意見を85%以上いただいています。

ただし、【7 学校ではいじめや悩みを抱えた生徒、不登校等について効果的な指導や支援を行っている。】項目については、肯定的意見が58%(昨年度55%)であり、他項目と比べて低い数値と感じます。

いじめや悩みを抱えた生徒などには、学年部での面談対応や複数回のアンケート等を通じて早期発見、早期対応に努めているが、実際に不登校傾向にある生徒については、家庭と連絡を早期発見と早期対応に努めているが、劇的な改善に至らないことがあると考えられる。スクールカウンセラーとの面談に加え、今年度は学校医小田嶋先生が個人的に面談を実施してくれる機会を得ています。今後も各方面と協力しながら継続して丁寧に対応していきたいと思っております。

【9 部活動は適切に行われている。】項目では、【あまり思わない】+【全く思わない】という否定的意見が8%(昨年度5%)であり、少数ではあるが看過できません。自由記述欄にも部活動関係の書き込みがあり、顧問との意見の相違を感じるケースがあるようです。こちらの考えがしっかり伝わるような指導とコミュニケーションに心掛けるよう共通理解を徹底したいと思っております。

【10 学校の防災・防犯等に対する危機管理体制はしっかりしたものになっている。】項目では、肯定的意見が89%(昨年度78%)と数値が伸びています。不審者対策として、遅刻早退者を事務室通過対応としたことがひとつの要因かと考えられます。また、クマ出没情報を周知して注意喚起を徹底したこともあるでしょう。

## 2. 教職員アンケートの集計について(3ページ目) (回収率100%)

【3 学校では、MDS等の探究活動を通して、主体的な態度の育成に向けて、学校全体で取り組んでいる。】項目では、【あまり思わない】が13.6%(昨年度8.6%)でした。SSH推進校として、MDS科目の取り組みは重要だが、昨年度と少しやり方を改善した。これにより、全体での共通理解がまだ浸透していない不安があることと表れではないかと推察します。推進部を中心に、3年間を見据えて効果のある取り組みを皆で補い合いながら進めたいと思っております。

【4 学校では、明確な目標をもって進路実現ができるような指導に、学校全体で取り組んでいる。】項目では、【そう思う】56.8%(昨年度40%)であるが、【あまり思わない】11.4%(昨年度5.7%)も特徴的である。進路指導については、学年で特徴ある取り組みをしていることは、なんらまともがないことにはなりません。学年毎に生徒の特徴が違えば、取り組みに違いがあるのは当然です。生徒の力を伸ばし、目標の進路実現に近づける手助けをするという根本が一致しているのであれば、全体で取り組んでいることになると思われます。ただし、進路指導とは、あらゆる分野での活動が実を結び、教育活動全般で成長を促すことを認識したいと思っております。

【5 学校では、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成など、生徒指導に学校全体で取り組んでいる。】項目について、否定的意見が18.2%(昨年度14.3%)とやや多く感じます。校則への過度な縛りはいけませんが、生徒の生活様式を見たときに、世代感覚のズレを感じる場面は散見されます。我々は、【変えていかなければいけないこと】【変えてはいけなくとも】をしっかりと見定めて、未来を支える生徒の人格形成のために取り組みたいと思っております。

## 3. まとめ

### アンケート集計について(2・3ページ目)

【15 今後、学校に力を入れて欲しいことを希望の高い順に5つ挙げる】選択では、保護者 1位 学習指導 2位 進路指導 3位 道徳・人間教育 教職員 1位 学習指導 2位 進路指導 3位 探究活動 となっています。

1位と2位が共通になっているが、3位に注目すれば、保護者は学習のみでなく、生徒の成長を後押ししてくれる教育活動を望んでいることと表れと捉えることができます。職員は、SSH推進校の立場から探究活動の重要性をあげていると思いますが、探究活動を含め、あらゆる場面での生徒の成長を目指して取り組まなければいけないことをあらためて感じました。

# 【令和7年度 学校評価アンケート(保護者)集計結果】

調査期間 令和7年12月15日～令和8年1月16日

質問番号	質問項目	学年	評価段階(%)				
			1	2	3	4	5
			そう思う	どちらかというと思う	あまり思わない	全く思わない	わからない
1	学校は今年度の重点目標である「未来を切り拓く人づくり」の目標の実現に向けて、学校全体で取り組んでいる。	1年	35.1	50.3	3.8	0.0	10.8
		2年	35.6	48.9	4.0	0.0	11.5
		3年	35.5	51.2	3.0	0.0	10.2
		全校	<b>35.4</b>	<b>50.1</b>	<b>3.6</b>	<b>0.0</b>	<b>10.9</b>
2	学校では、確かな学力を育成する授業に、学校全体で取り組んでいる。	1年	52.4	41.6	2.7	0.0	2.7
		2年	46.0	50.0	0.6	0.0	3.4
		3年	47.6	44.6	4.2	0.0	3.6
		全校	<b>48.8</b>	<b>45.3</b>	<b>2.5</b>	<b>0.0</b>	<b>3.2</b>
3	学校では、MDS等の探究活動を通して、主体的な態度の育成に向けて、学校全体で取り組んでいる。	1年	44.9	42.7	1.6	0.0	10.8
		2年	50.6	42.0	2.3	0.0	5.2
		3年	45.8	44.6	3.0	0.0	6.6
		全校	<b>47.0</b>	<b>43.0</b>	<b>2.3</b>	<b>0.0</b>	<b>7.6</b>
4	学校では、明確な目標をもって進路実現ができるような指導に、学校全体で取り組んでいる。	1年	45.4	47.0	4.3	0.0	3.2
		2年	49.4	46.0	1.7	1.1	1.7
		3年	45.2	44.6	6.6	0.0	3.6
		全校	<b>46.7</b>	<b>45.9</b>	<b>4.2</b>	<b>0.4</b>	<b>2.9</b>
5	学校では、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成など、生徒指導に学校全体で取り組んでいる。	1年	36.8	53.5	5.4	0.0	4.3
		2年	33.3	56.3	3.4	0.6	6.3
		3年	35.5	53.6	3.6	0.0	6.0
		全校	<b>35.2</b>	<b>54.5</b>	<b>4.2</b>	<b>0.2</b>	<b>5.5</b>
6	学校では、ICT活用能力の育成に、学校全体で取り組んでいる。	1年	36.2	41.1	4.9	0.0	17.8
		2年	31.6	45.4	8.6	0.0	13.8
		3年	33.7	47.0	4.8	0.0	14.5
		全校	<b>33.9</b>	<b>44.4</b>	<b>6.1</b>	<b>0.0</b>	<b>15.4</b>
7	学校では、いじめや悩みを抱えた生徒、不登校等について効果的な指導や支援を行っている。	1年	20.0	35.7	8.1	0.0	36.2
		2年	16.1	42.5	6.3	0.6	34.5
		3年	25.9	36.7	5.4	0.0	31.9
		全校	<b>20.6</b>	<b>38.3</b>	<b>6.7</b>	<b>0.2</b>	<b>34.3</b>
8	学校行事や生徒会活動は適切に行われている。	1年	47.0	47.6	3.2	0.0	1.6
		2年	51.1	46.0	1.1	0.0	1.1
		3年	48.2	45.2	3.6	0.6	1.8
		全校	<b>48.8</b>	<b>46.3</b>	<b>2.7</b>	<b>0.2</b>	<b>1.5</b>
9	部活動は適切に行われている。	1年	48.1	38.4	9.7	1.1	2.7
		2年	45.4	42.0	5.2	1.1	5.7
		3年	43.4	40.4	6.6	0.6	9.0
		全校	<b>45.7</b>	<b>40.2</b>	<b>7.2</b>	<b>1.0</b>	<b>5.7</b>
10	学校の防災・防犯等に対する危機管理体制はしっかりしたものになっている。	1年	45.4	40.5	4.9	0.0	9.2
		2年	45.4	45.4	2.3	0.0	6.9
		3年	48.8	41.6	3.0	0.0	6.6
		全校	<b>46.5</b>	<b>42.5</b>	<b>3.4</b>	<b>0.0</b>	<b>7.6</b>
11	保護者との対応や電話の対応など、教職員の態度や対応が適切に行われている。	1年	60.5	33.0	1.1	0.0	5.4
		2年	60.9	33.9	1.1	1.1	2.9
		3年	62.0	31.9	1.2	0.0	4.8
		全校	<b>61.1</b>	<b>33.0</b>	<b>1.1</b>	<b>0.4</b>	<b>4.4</b>
12	学校や学年からの情報発信や連絡が適切に行われている。	1年	62.2	35.1	2.2	0.0	0.0
		2年	48.9	44.8	4.0	0.6	1.1
		3年	56.0	39.8	4.2	0.0	0.0
		全校	<b>55.8</b>	<b>39.8</b>	<b>3.4</b>	<b>0.2</b>	<b>0.4</b>

アンケート有効回答数			
	回答数	在籍	回答率
1年	185	209	88.5%
2年	174	207	84.1%
3年	166	209	79.4%
全校	525	625	84.0%

番号	質問項目	学年	選択肢(%)									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他の記載
			授業	探究活動	HR活動	行事	生徒会活動	部活動	休み時間	補習等	その他	友達との交際話 先生との談話等
13	お子さんは学校でどんな時が楽しいと言っていますか。(複数選択可)	全校	37.8	12.9	10.0	70.8	5.4	63.1	50.4	6.0	2.9	

番号	質問項目	学年	選択肢(%)					
			1	2	3	4	5	6
			どの科目もよく分かる	分かる科目が多い	分かる科目が少ない	理解できず困っている	聞いたことがない	その他無回答
14	生徒は授業に対してどのような感想や意見を述べていますか。	1年	4.9	53.5	18.4	4.3	10.3	8.6
		2年	3.4	56.9	16.7	3.4	10.3	9.2
		3年	7.8	56.6	10.8	2.4	16.9	5.4
		全校	<b>5.3</b>	<b>55.6</b>	<b>15.4</b>	<b>3.4</b>	<b>12.4</b>	<b>7.8</b>

番号	質問項目	学年	選択肢(%)									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			学習指導	探究活動	生徒指導	進路指導	道徳・人間教育	部活動	体力向上や健康	ICT活用能力	国際理解教育	ボランティア活動
15	今後、学校に力を入れて欲しいことを希望の高い順に5つ	全校	63.2	2.1	1.1	21.5	6.7	1.3	0.6	1.0	2.1	0.0
	1番目に挙げた割合	全校	21.1	6.1	2.9	51.2	5.9	3.4	1.3	4.0	2.9	0.8
	2番目に挙げた割合	全校	63.2	2.1	1.1	21.5	6.7	1.3	0.6	8.8	8.0	2.1
	3番目に挙げた割合	全校	2.3	14.5	8.6	5.7	16.0	13.1	6.1	12.4	11.2	4.8
	4番目に挙げた割合	全校	1.5	10.7	6.3	1.9	10.9	10.1	6.9	11.0	11.4	6.1
	5番目に挙げた割合	全校	3132	424	231	2050	629	319	152	435	419	131
※重み付け加点点数			1	5	8	2	3	7	9	4	6	10
保護者の優先順位			1	5	8	2	3	7	9	4	6	10

※加点点数…1番目に挙げた人数を5点として、以下、2番目に4点…、5番目を1点として、合計した点数。

# 【令和7年度 学校評価アンケート(職員)集計結果】

評価期間 令和7年12月15日～令和8年1月16日

質問番号	質問項目		評価段階(%)				
			1 1 1 1 1	2 2 2 2 2	3 3 3 3 3	4 4 4 4 4	5 5 5 5 5
1	学校は今年度の重点目標である「未来を切り拓く人づくり」の目標の実現に向けて、学校全体で取り組んでいる。	回答数	17	26	1	0	0
		%	38.6	59.1	2.3	0.0	0.0
		前年度%	42.8	54.3	2.9	0.0	0.0
2	学校では、確かな学力を育成する授業に、学校全体で取り組んでいる。	回答数	28	15	1	0	0
		%	63.6	34.1	2.3	0.0	0.0
		前年度%	51.4	45.7	2.9	0.0	0.0
3	学校では、MDS等の探究活動を通して、主体的な態度の育成に向けて、学校全体で取り組んでいる。	回答数	21	17	6	0	0
		%	47.7	38.6	13.6	0.0	0.0
		前年度%	31.4	57.1	8.6	2.9	0.0
4	学校では、明確な目標をもって進路実現ができるような指導に、学校全体で取り組んでいる。	回答数	25	13	5	1	0
		%	56.8	29.5	11.4	2.3	0.0
		前年度%	40.0	51.4	5.7	2.9	0.0
5	学校では、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成など、生徒指導に学校全体で取り組んでいる。	回答数	15	21	7	1	0
		%	34.1	47.7	15.9	2.3	0.0
		前年度%	20.0	62.8	11.4	2.9	2.9
6	学校では、ICT活用能力の育成に、学校全体で取り組んでいる。	回答数	15	22	6	0	1
		%	34.1	50.0	13.6	0.0	2.3
		前年度%	37.1	57.1	2.9	2.9	0.0
7	学校では、いじめや悩みを抱えた生徒、不登校等について効果的な指導や支援を行っている。	回答数	23	21	0	0	0
		%	52.3	47.7	0.0	0.0	0.0
		前年度%	37.1	60.0	2.9	0.0	0.0
8	学校行事や生徒会活動は適切に行われている。	回答数	15	24	4	0	1
		%	34.1	54.5	9.1	0.0	2.3
		前年度%	51.4	42.9	5.7	0.0	0.0
9	部活動は適切に行われている。	回答数	14	27	0	1	2
		%	31.8	61.4	0.0	2.3	4.5
		前年度%	37.1	62.9	0.0	0.0	0.0
10	学校の防災・防犯等に対する危機管理体制はしっかりしたものになっている。	回答数	17	24	3	0	0
		%	38.6	54.5	6.8	0.0	0.0
		前年度%	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0
11	保護者との対応や電話の対応など、教職員の態度や対応が適切に行われている。	回答数	25	19	0	0	0
		%	56.8	43.2	0.0	0.0	0.0
		前年度%	54.3	45.7	0.0	0.0	0.0
12	学校や学年からの情報発信や連絡が適切に行われている。	回答数	19	22	2	1	0
		%	43.2	50.0	4.5	2.3	0.0
		前年度%	34.2	60.0	0.0	2.9	2.9
13 (職員のみ) 校務について、組織的な取り組みや対応が適切に行われている。		回答数	14	24	4	1	1
		%	31.8	54.5	9.1	2.3	2.3
		前年度%	25.6	60.0	8.6	2.9	2.9
14 (職員のみ) 校務について、情報共有が適切になされている。		回答数	14	19	9	1	1
		%	31.8	43.2	20.5	2.3	2.3
		前年度%	25.7	60.0	11.4	2.9	0.0

アンケート回答数		
回答数	在籍	回答率
44	44	100.0%

質問番号	質問項目		選択肢									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
15	今後、学校で力を入れて取り組んだほうがよいと思うことは何か。優先度の高い順に5つ。		学習指導	探究活動	生徒指導	進路指導	道徳・人間教育	部活動	体力向上や健康	ICT活用能力	国際理解教育	ボランティア活動
		1番目に挙げた割合	81.8	2.3	2.3	11.4	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		2番目に挙げた割合	9.1	18.2	0.0	59.1	9.1	2.3	0.0	0.0	2.3	0.0
		3番目に挙げた割合	2.3	38.6	18.2	13.6	9.1	6.8	9.1	2.3	0.0	0.0
		4番目に挙げた割合	2.3	9.1	15.9	11.4	22.7	13.6	2.3	15.9	4.5	2.3
		5番目に挙げた割合	2.3	9.1	15.9	4.5	6.8	18.2	9.1	13.6	11.4	9.1
		※重み付け加点点数	202	100	50	159	56	33	18	23	13	6
教員の優先順位			1	3	5	2	4	6	8	7	9	10
前年度教員の優先順位			1	3	4	2	5	6	9	7	8	10

※加点点数…1番目に挙げた人数を5点として、以下、2番目に4点…、5番目を1点として、合計した点数。

## 令和7年度 主な学校評価自由記述(保護者から)への回答

保護者の皆様からいただいたご意見を学校評価職員会議の中で全職員で内容を共有し、各分掌等で改善策や回答を検討しました。その主なものについてまとめましたのでご覧ください。

ここで触れなかった内容についても、全て貴重なご意見として今後の学校運営や指導の参考とさせていただきます。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

### 【魅力ある授業づくり】

- 先生によって教え方や、教材の扱い方が違うように感じることもあるようです。子供の学習意欲が湧くような授業や教科・科目に興味を持てるような授業により、学ぶことの楽しさを感じることができるよう、お願いしたいです。
- 先生によって、生徒の授業理解への差が生まれることがあるかと思えます。差が出来ないように、担当クラスは通年制ではなくローテーションなど行なって貰えると差が出来にくい状況になるかなと思えますが、いかがでしょうか。授業の進行にムラのないようにして欲しい。
- 科目に興味を持つような授業を希望します。科目への興味が湧けばモチベーションもついてくると思えます。苦手教科があり学習意欲が湧いてこないようで、その壁を壊すような興味深い授業などを希望します。

年度初めに、各教科・科目で年間の指導計画を作成し、それに沿って授業を進めるようにしています。学校全体の取り組みとして、効果的なICTの活用や、教科を問わない相互授業参観期間の設定や研究授業及び研究協議会の実施など、授業改善に向けた校内研修を行っています。今後ともこうした取り組みを充実させ、教員の授業力向上を目指すとともに、生徒の学習意欲を高め、学ぶことの楽しさを味わうことができるよう、魅力ある授業づくりを推進してまいります。

また、生徒の興味を引く授業の在り方について工夫を促すために、授業アンケートの活用や、授業事例の研究等を通じ、世代の関心事、個人の興味の持ち方、時事的話題の提供をはじめ、問題提起の技術、授業展開の仕方、効果的な資料や教具の使い方等について研修を重ねてまいります。

【出校停止や公欠の際の対応について】 感染症対策や公欠等の事由によって授業を書いた場合、授業の内容が分からず苦労している様子が見えます。何らかのフォローをお願いしたいです。

感染症等で登校できない際に、オンライン授業を希望する旨をすぐーるに記載いただければ、対応可能な場合はタブレット等を活用したオンラインで授業の内容を視聴することができます。なお、授業を視聴したとしても、原則として授業に参加したことにはならず、出席扱いにはなりませんのでご留意ください。公欠により授業を欠き授業内容の理解に不安がある場合は、個別に質問等に対応いたしますので、なるべく早めに教科の先生にご相談ください。

【 授業 】 理解出来ない子供への補習を強制的にして欲しい。

【 進路 】 義務教育ではないので、「自分で」が当然かもしれませんが、過去問をもらったのが2, 3日前でした。

進路指導や学校生活全般を通して、自分で考え行動できる生徒、わからないときには自ら質問できる生徒をご家庭と一緒に育てていきたいと思えます。

【進路情報の提供について】 希望する職業に就くため、また、特定の資格を取得するための大学・学部学科選びについて教えて欲しい。

大学の学部・学科は様々ありますが、医、歯、薬など仕事に直結する資格系の学部もあり、また、工、経営、商、法など、仕事に直結しないまでも特定の職種に就くためにはこの学部でなくては厳しいという学部もあります。しかし、ほとんどの学生は、大学で専攻した内容と仕事内容が一致しているわけではありません。企業側は、学部学科の枠組みを超えた多様な人材を求めています。学部・学科選びは、興味のある勉強したい分野を選ぶことを優先した方が後悔しないと思えます。知りたい大学・学部の卒業生の就職先や職種については、その大学のホームページや大学案内などで公開されていますし、教室や進路指導室に置いている蛍雪時代臨時増刊にも様々な情報が載っています。特に、資格取得については6月臨時増刊が参考になります。また、各学年やクラスでは必要に応じて適宜面談を行っております。こうした機会に、進路に関するご相談やご質問をお寄せいただければ幸いです。

**【情報提供】** 模試の結果等、生徒しか見られないのでは家族が相談にもつれないので、保護者にも伝わるようにしてほしい。今回の面談では説明していただいたのでよくわかりました。

模試の成績表を生徒に配付した旨を、今後はすぐ一層で連絡するようにしてまいりますので、ご家庭でお子様へ声をかけていただき、ぜひ一緒にご覧ください。

**【進路情報の提供】** 大学についての情報は得られているようですが、その先の職業等についての情報が得られたり、卒業された先輩による講演等生き方について考えたりする機会があるとありがたいです。

今年度1年生を対象にした講演会としては、11月に「高校生向けキャリアトーク」、12月に青雲の志plusⅡを実施しました。地元企業で活躍する方々の経験談を通して、大学での学びと卒業後の仕事の関連等について考え、主体的な進路選択を促す機会を設けております。2月にも青雲の志plusⅢを計画しておりますので、ご存知おき下さい。

**【進路選択の助言】** 本人の成績や学力、今後の伸びしろなどを踏まえた上で、自信が身に着くような進路指導を具体的にしたい。本人の希望通りに進学できるのか親の立場からはよくわからないので、厳しくも的確なアドバイスを先生方からしてほしい。また、成績による志望校合格判定評価だけでなく、現状の成績により選択できる進学先の目安や受験方法を簡易的に把握できる仕組みがあるとありがたく思います。

受験勉強に本格的に向かう時期になり、本人と保護者がよく話し合い、進路目標を設定していただくことはとても重要です。その参考になるよう、保護者面談や生徒との個別面談の機会を設定していますが、限られた時間で十分な情報提供ができていないかもしれません。また、模試のデータや進路情報冊子に記載されている内容も分かりにくい部分もあると思います。ご不明の点や不安なことがあれば遠慮なく、学校に御連絡ください。可能な限り、それぞれの生徒に合わせた進路情報を提供できるよう準備し、学年部で対応していきます。全体では、今後はより一層、学年通信などを通して多様な進路情報を適切な時期にかみ砕いてわかりやすく伝えるよう努力してまいります。

**【生徒指導の在り方について】** 横手高校生だから善悪の判断ができているはずというのは穿った考えだと思います。人として正しい行動ができるかは勉強ができるできないとは違うので、人として間違った行いをした場合は、厳しくご指導をお願いいたします。

公共の場における判断力や行動規範は、人としての在り方を大切にした不断の指導によって育まれるものであると認識しております。さらに学力とは別に、幸福を求める上で欠くことのできない力であるとも考えております。横手高校での生活のあらゆる場面でその力を養っていただけるよう努めてまいります。特に交通マナーや本校駐車場内での行動につきましては、安全面・マナーの両面から看過できない課題と受け止め、具体的な場面を踏まえた注意喚起と指導をあらためて徹底し、生徒一人ひとりが高い自覚と責任をもって行動できるよう、継続して取り組んでまいります。

**【年間予定表について】** 早い時間に下校する日や学校行事への参加等、年間行事予定表を確認しながら対応できるように、年間行事予定表に記載する内容を充実させてほしい。また、学校活動の連絡を早く明確に分かりやすく伝えてほしい。

本校ホームページの年間行事予定へ載せる内容について、各分掌と検討しながら充実を図ってまいります。また、年間予定表については、「すぐ一層」にて配信できるよう準備を進めてまいります。

**【路線バスの増便について】** ツキノワグマへの対応や冬期間は、バスを利用して下校する生徒が増えているが、1台に乗車できない場合もあり、バス会社と連携して必要に応じてバスを増便したり大きなバスに変更していただけないでしょうか。

バス会社のダイヤ改正により、令和8年1月から横手高校前バス停に停車する路線で、12時～13時台のバスが減便されております。学校行事等で早い時間に放課する場合において、バスの運行時刻に対応した日程を計画できるよう関係分掌と調整を図ってまいります。また、横手市地域公共交通活性化協議会との情報交換を進めてまいります。

**【部活動の練習について】** 部活動の送迎が大変で、練習時間も長くなりました。練習場所や時間、休みについては検討していただきたいです。

部活動については本校ホームページにも掲載している「部活動に係わる活動方針」で定めた活動時間や休養日の設定、活動計画の保護者への周知について順守するよう、顧問会議で呼びかけてまいります。

**【学校行事等について】** 課外活動等が自粛や中止される傾向にあり寂しい。予算や安全面など厳しい現実ではありますが、できる範囲で実施していただきたい。

学校行事や課外活動については経費の高騰やクマ出没への対策などを考慮し、生徒の安全のために慎重に実施を検討してまいります。

**【課題や小テストについて】** 課題量、小テストが多く、授業の予習までなかなかできていない様子です。

自発的に向かうまでが難しいので、やはり課題、宿題をやらなければならない状況にするしかないと思います。課題や宿題をしっかりすることは将来仕事を真面目に取り組む力にもなると思います。

長期休業中の課題に関して、全体の量の調整はなされているのでしょうか？せっかくの長期休業、苦手分野の復習に時間をかけたくても、提出義務のある「課題」が多く、より自分に合った学習に使える時間が少なくなってしまうと感じます。

冬期休業に関しては、ある教科では課題提出義務を課さずに、資格取得などの勉強や苦手分野克服のための主体的な勉強ができるよう配慮いたしました。今後も教科や実施日程のバランスを調整し、適度な負荷をかけながらも負担にならないように配慮してまいります。

**【情報提供等】** イレギュラーな下校時間はだいたい構わないので、全て教えていただきたいです。

行事予定で事前にわかっている日程については、学年通信でお知らせしておりますので、ご確認ください。学年通信は配付日の夕方にもすぐるでも配信しております。緊急の場合はすぐるで連絡しております。今後も情報提供に努めてまいります。

**【情報提供等】** 子供が出さないのが1番問題なのですが、できれば保護者宛の配布物に関してもすぐるで流してほしいです。

保護者宛の配布物に加えて、学年通信・進路通信等、ご家庭で目を通していただきたいものについては、すぐるで配信しております。今後も適切に情報提供できるよう、配信の頻度等について検討してまいります。

**【校舎に関すること】** 体育館の早期完成に期待しております。また、現体育館の照明について明るさの改善をお願いします。

物価高騰の影響で体育館棟建築工事が中断しておりましたが、令和7年7月、工事着手しております。現在は杭打ちを終了し、令和8年3月から基礎打ち、7月から鉄骨建て、9月から屋根葺・外壁張を実施し、令和9年3月の完成を予定しておりますが、それまでは現在の体育館を使用することになります。水銀灯の使用電力量と電気料金の高騰によるやむなくの減灯措置ですので、保護者の皆様にはご理解のほどお願いいたします。

また、弓道場については令和8年12月の完成に向けて変更設計中であります。

※他にもたくさんのご意見をいただいております、職員間で共有させていただいております。  
次年度以降の教育活動に活かせるよう努めてまいります。

## 令和7年度 学校評価についての職員会議 意見交換内容

教職員アンケートの自由記述（次ページ）も取り上げながら、2月10日の学校評価職員会議において学校の取り組みについて意見交換を行いました。

◆**総務部** 保護者自由記述からは、予定表の早期提示や路線バスの本数についての要望が多かった。また、教職員自由記述では「情報提供を早く」との意見が多く、保護者には文書をすぐで配付することや、生徒にはチャット、教職員にはスクールウェアを利用し、早期共有を推進したい。

◆**教務部** 保護者自由記述に多くある「魅力ある授業づくり」や「出停や公欠した生徒への対応」への要望が多かった。職員自由記述では「55分×7校時」の改善についての意見が多かった。授業50分化の工夫を提案し、次年度試行予定である。ただし、根本解決には2単位削減が必要であり、次年度中に協議を進めていきたい。また、学習評価の在り方に対する疑問も多く、基準のすり合わせに向けて協議を進めていきたい。

◆**生徒指導部** 保護者アンケートで送迎時マナーの悪さへの厳しい指摘（具体事例あり）をいただいている。生徒へ「他者への配慮」を強く求めていく。教職員からは「気候が読めない日々の増加」が指摘され、現場意見を随時受け止め、環境改善（換気などの調整）に努める。

◆**進路指導部** 保護者評価では「進学後の就職・職業情報提供」が毎年要望され、PTA等での説明で対応している。総合型・学校推薦型選抜は「一般受験への過程」と捉え、学力優先の方針を保護者・教職員へ周知させたい。新任教員の情報不足は学年部内のコミュニケーションで補完できるものであるが、入試情報交換会の充実でより解消できると思われる。上位者対策・難関大学志向の取組は現2年生から開始し、継続を検討している。

◆**特別活動部** 部活動指導への感謝の声がある一方、送迎や遅い練習終了時間帯、休み設定への配慮要望が毎年あるので、部活動運営方針に沿って保護者とコミュニケーションをとり理解を得たい。学校行事については中止への残念な声と暑さによる安全懸念が併存している。まずは安全優先で検討していきたい。教職員からは、複数部顧問への負担軽減の具体策が今年度進まなかったのも、来年度に向けて方法を検討する。生徒会活動の主体性への疑問の声があり、活動の可視化・情報発信を強化したい。部活動派遣費の大枠は提示済みだが、顧問意見の聴取が滞り具体化できなかったのも、早期に方針を提示したい。

◆**研修部** 校内相互授業参観の回数が少なく参加が進まない状況である。同教科内で教える内容の差異について保護者からの指摘が多く、魅力ある授業づくりの研修の必要性を認識しているので、相互授業見学を信頼関係のもとで促進させたい。

◆**保健部** 学校医小田嶋先生からの相談支援を受けて効果があったので、来年度も継続したい。清掃活動については、比率・範囲（工事箇所等含む）の見直しを保健部内で確認し改善予定である。

◆**図書教育情報部** 図書館機能の整備・改善を継続していくことと、次年度から導入のBYODについて、初年度は混乱が予想されるため、情報共有と協力体制を強化したい。

◆**SSH推進委員会** 今年度から講座制導入により、学校全体で3年間の継続性をもって取り組んでいる。地域事情や運用上の制約でバランス良く進められていない部分があるが、協議調整を継続し、準備できた内容から早期に共有していく。

◆**学年運営** 3年部の面接・小論文担当の割り振りで、時間差が生じ連絡が徹底できなかった面は反省する。学年企画・行事が他学年・教科担当への連絡不足があったことはしっかり受け止め、来年度は連携強化を図りたい。

### ●まとめ

保護者の意見には、もっと丁寧に寄り添えば改善できる点が多いので、改善可能な部分をしっかり把握して、大きくなくともマイナーチェンジしていくべきと捉えている。職員間では、学年ごとの取り組みの差異や進路指導の学校全体としての統一感に対する疑問が投げかけられているが、学年部それぞれの特徴・特色があることはなんら問題ではなく、生徒の進路達成へ全力で取り組む部分が根底にあれば、学校全体で取り組んでいることになると考える。ただし、その違和感できるだけ少なくするためには、まずは学年間・職員間のコミュニケーションを密にし、情報交換を普段から積極的に行うことで、学校全体としての意識が高まっていくと感じる。また、その横のつながりを強化するためにも管理職を利用してもらいたい。進路指導のみならず、あらゆる分野で「チーム学校」として一枚岩となり生徒の成長に努めていきたい。

## 【令和7年度 主な学校評価アンケート（職員）自由記述】

通番	記述
1	50分×6コマで統一してもよいと考えます。55分で7時間目のある日を作ると教員、生徒ともに体力・気力面で無理があるように感じます。
2	自分にMDSの指導力がないことを痛感させられた。教科を配慮して割り当てられた分野だったと思うが、それとは別の知識が必要で、困難を感じた。
3	MDSの指導については、全校体制の講座制になって初年度で、一部でうまくいかない点も見られたので、一定のマニュアルや共通理解等についてSSH委員会等で検討し、周知する必要があると感じた。
4	学習評価のあり方は現行のままで良いのか、疑問をもち続けている。「進学校だから」という理由からか、定期考査の点数を基準に評点・評定が決められているが、その結果観点別評価は意味を為していないように思われる。ABCの付け方も各教科に委ねられていて、一覧表を見るとばらつきがあって説明ができないものもある。教師側から思考力を試す問題を出题しにくい状況になりつつあるのではないかと。生徒もテストの点数ばかりに固執している姿も散見される。授業の充実を図るためにも、学習評価のあり方を今一度全体で考える時間がほしい。
5	横手高校としての進路指導のあり方が不透明。総合型選抜や推薦入試への取組方や各種模試の計画・結果、進路指導通信の発行など、各学年部が独立して動いていたり、進路指導部内でしか情報が共有されていないという状況があるのではないかと。定例職員会議でも進路指導部からの報告事項はほとんど挙がらず、限られた資料を個人で確認するしかない。学校全体で指導に臨むには、定例職員会議での伝達は今よりも詳細に行ってほしい。
6	これからさらに授業日数が減ったとき、生徒の希望に添う授業内容ができるか心配です。もちろん限られた時間で生徒の力を伸ばせるように最大限努力しますが、どうしたらいいかと頭を抱えています。
7	上位者対策、難関大学を目指す意識づけなど、組織としての対策が必要。
8	挨拶を含めた基本的な生活習慣を個々の生徒に確立してもらうための取り組みが必要だと考えます。生活習慣と学習習慣のつながりを学年集会などで伝えていきたいです。長期休業前の生徒指導部からのお便りも発行してほしい。また、衣替え移行期間の連絡も制服の準備を考慮に入れると移行期間の2週間前にはした方がいいと思います。
9	個人端末導入に向けて校内ルールの策定をしておきたい。
10	服装や生活態度などの指導は、気付いた人がその場でタイムリーに指導していくことが大切だが、配慮が必要な生徒がいたら共有してもらいたい。
11	今年度、学校医の小田嶋先生のご厚意により「心と体の相談日」を実施し、心身の不調を訴える生徒にとって成果が上がり始めている。思いがけず病気が見つかり、早期治療に結びついた1件、不登校傾向と発達障害・精神疾患の疑いなどで情緒不安定の生徒が治療開始1件。学校からはお伝えにくいことを専門家である医師の助言であることが、受け入れやすさにつながると推測している。あらためて小田嶋先生に感謝し、今後も継続していただけるように体制を整えたい。
12	学校行事の数自体は多くないと思います。スキー授業などの「この地域だからこそできる」ようなものを削減していくのはどうなものか？と疑問に思います。
13	今年度は、行事の削減や実力テストの廃止等、大胆な業務改善によって余裕が生じたことを実感している。授業準備や生徒面談、3年生の面接や小論、学習指導を充実させることができた。
14	今年度は、当初の予定と日程や行事が変更になることが多く、職員全体で情報共有なされていないと思うところがあった。（他学年の動きが把握されておらず、教科担当が知らないことが多々あり。）連絡や報告が必要だと感じた。学校の進路指導部としてではなく、学年独自で講演や放課後講座（補習）があり、学校の進路の方針でなく、学年単位で大きく差がでるのではないかと感じた。実情を私が知らないだけでしたらすみません。
15	生徒会が形骸化しているように思える。美入野祭でも生徒会執行部が実働しているようだが、多くは担当職員の綿密な計画のもとであり、生徒主体で考えて動いているようには見えない。新しい校舎になって日が浅いという考え方も分かるが、既に経験した生徒が役員にいるのなら生徒主体で動かしてもいいのではないだろうか。担当職員が時間をかけて考えたものを生徒に実行させているだけに見え、その先生方の負担が計り知れない。
16	日程に関する連絡が職員に対しても生徒に対しても遅いと感じます。昨年からは私が勤務して困り感が大きいところです。自分が担任をしていて、気づけば前もって生徒に伝えていますが、様々なことについて、「Chatで伝えた」だけでよいのかな、と感じているところです。
17	部活動に関わるお金がないとのこと、顧問によっては、かなりの苦心、負担の中で節約に努めています。支出してしまってから、全体に一律に節約を求められるのは納得できない人もいます。
18	様々な行事等が、他の学年や分掌等に知らされないまま進められていることが多いと感じる。直接関係のないことでも、せめて要項をチャットに掲載する程度の情報共有があるのが望ましいと思う。

## 令和7年度 学校関係者による学校評価会議でのご意見・ご提言

2月10日の職員会議の内容も示しながら、2月20日（金）に学校関係者による学校評価会議を行いました。その中で、学校関係者の皆様からご意見・ご提言をいただきました。

### ●細谷 拓真 様（学校評議員）

- ・私学高校無償化の進展と地域校との格差に危機感を感じる。無償化による私立の台頭で越境選択増の可能性が高まる。徳島の私立「神山まるごと高専」などの事例を共有したい。
- ・地域の民間支援、基金創設の必要性を感じ、自治体予算に依存せず地域有志への要請を推奨したい。
- ・学習格差（A I / ネット環境）への懸念から学校として環境提供を検討してほしい。
- ・質問力、抽象思考などA I 前提のリテラシー育成を提案と医療分野の事例（Open Evidence等）紹介。
- ・校内データを蓄積し、進路相談等で成長する校内A I 構想も必要ではないか。低予算での開始が可能であると考える。
- ・横手高校との繋がり、学校への愛着を持っている方が地域には多い。
- ・伝統を繋ぐためにも、止める理由ではなく、止めないためにどうすべきか考えてほしい。

### ●五十嵐 友和 様（学校評議員）

- ・ビジネスの世界では、A I が出てきたことによる仕事の置換え、変化が大きい。
- ・大学進学後、社会人になっても、論理的な思考力や自分で考えていくというのが現実の力として非常に重要である。
- ・玄関での生徒とのエピソードを紹介し、対応が素晴らしく感銘を受けた。

### ●阿部 和明 様（学校評議員）

- ・進学後に希望職種との不適合による、再受験等の事例もある。保護者アンケートにもあるように、進学後の就職・職業指導も必要ではないか。
- ・進学指導だけでなく、職業観も育ててほしい。

### ●伊藤 俊也 様（PTA会長）

- ・わかりやすい情報提供（比較表・コストの内訳等）をお願いしたい。
- ・「すぐーる」連絡ツールの活用が拡大し、職員間・保護者間の情報共有が改善したようだ。
- ・アンケートでの意見は様々あるが、家庭でできることは、学校から切り離してもよいと考える。

### ●林 英樹 様（PTA副会長）

- ・家庭で子どもとコミュニケーションが上手くとれていない保護者が多いことが実情のようだ。
- ・「すぐーる」で模試の結果についても連絡してほしい。

### ●佐藤 慶太 様（PTA副会長）

- ・保護者と職員の評価項目順位差について、来年度の方針説明をお願いしたい。
- ・評価項目順位差は、高校生の子どもの接し方で苦慮している保護者が多いとも読み取れそうだ。

### ●齋藤 英 様（PTA副会長）

- ・長年の制服（詰襟）の着心地や学習しやすさの観点から、将来的には制服見直しの検討を提案したい。生徒アンケートなどで意向確認することもひとつの方法ではないか。

### ◆校長より

貴重なご意見やご提言いただき感謝しています。横手高校を支えてくれる思いを受け止め、学校発展に一層努めたいと思います。今後予定されている入学者選抜では定員を上回る出願があり、地域の支援を得ながら、引き続き中学生や保護者から選ばれる学校を目指して取り組んでまいります。